

平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成24年11月28日
山 梨 県

作物名：ブドウ

病害虫名：ブドウ斑点細菌病

病原細菌：*Xanthomonas arboricola* Vauterin *et al.* 1995

1 発生の経過

平成20年6月に甲府盆地東部、平成21年5月に甲府盆地東部・西部で、欧州系ブドウの葉及び果房に斑点症状が発生した。

(独)農業生物資源研究所に協力を依頼し、本症の発生状況や分離細菌の性状等を確認したところ、ブドウではこれまで報告のない*Xanthomonas arboricola*による病害であることが明らかとなり、平成23年12月に病名登録された。

2 発生状況

品種では‘甲斐路’、‘ロザリオビアンコ’で発生が認められるが、発病程度は年次・地域間差が大きい。現状、県下全般に発生程度は低い。なお、‘巨峰’、‘ピオーネ’、‘デラウェア’、‘甲州’では発生を認めていない。

3 病徴

本病は、早い年には5月上旬の展葉5～6枚時から、新梢の下位葉に病斑が認められ、次第に先端葉に進展する。ほ場の一部で発生するが多いが、拡大する場合もある。

葉の病徴は葉脈に囲まれた境界の明瞭な角斑で、はじめ黄白色～黄緑色の水浸状、のちに褐色～黒褐色の壊死斑となる(図1～4)。果粒や小果梗にも、表皮が裂開し中央部がやや陥没した黒褐色～黒色の楕円形の壊死斑が生じる(図5～6)。葉の病斑を検鏡すると、細菌の漏出が確認される。

葉の病徴はつる割病に類似するが、葉の病斑が角斑であることから区別できる。

4 防除対策

現在のところ本病に対する登録薬剤はない。

耕種的な対策として、本病が発生した果房では被害果粒を取り除く。

5 連絡先

山梨県病害虫防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

山梨県甲斐市下今井1100

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp



図1 葉の斑点症状



図2 角斑



図3 壊死斑



図4 発病程度の高い葉



図5 幼果の症状



図6 成熟果の症状